

冬～春の花苗の移植に適した用土の調査

研究背景

植物が必要とする水分量は種類ごとに違うため、用土の保水性は植物の生長の速さを大きく左右する。保水性の違う用土で生長の差を調べることで、その植物に適した用土と灌水量を推測することで過灌水による生長の遅れや枯死を防ぐことができる。

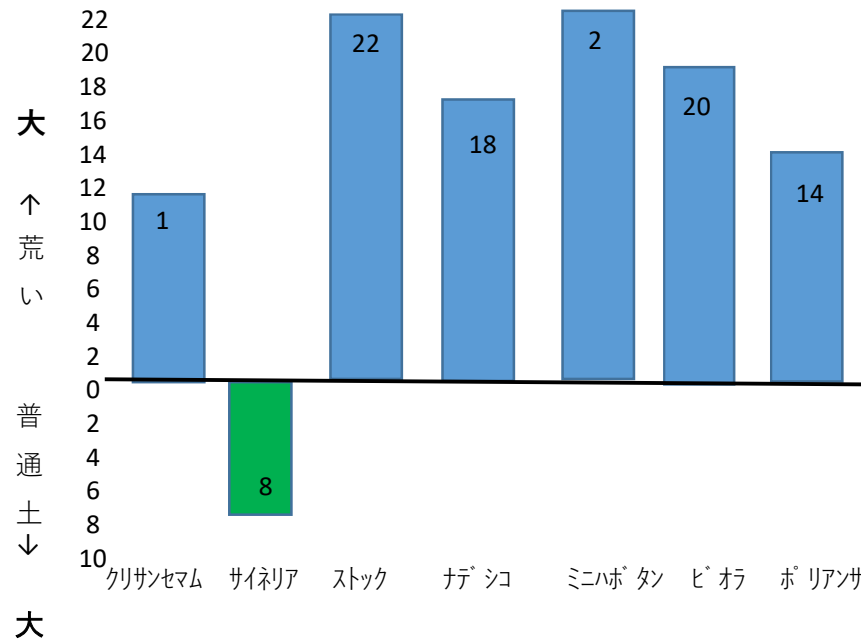
成果要約

冬～春の花7品種のうち、6品種で荒い土の方が生長が早く、1品種で普通土の方が生長が早かった。特に、ストック、ハボタン、ピオラでは用土による生育差が大きかった。

今後の展望

稚苗を移植する最適なポットの大きさを調べるための比較試験し、最適な用土と組み合わせて育苗の効率化を検討する。

概要



(図1) 冬～春の花苗における荒い土と普通土の生長比較 (%)

【調査方法】

冬～春の花苗7品種(※1)を選び、稚苗を普通土と荒い土(※2)にそれぞれ6cm黒丸ポリポットに48株移植し、約3週間後に苗の直径を測定した。測定値から大きさの割合を算出し、生長の違いをグラフ(図1)にして比較した。

【調査結果】

図1のとおり、サイネリアを除いて6品種で荒い土の方が12%～22%生長が早かった。特にストック、ミニハボタン、ピオラについては特に成績がよかった。サイネリアについては過灌水で枯死する苗があり、再調査の余地がある。

(※1)試験栽培に使用した品種

クリサンセマム：パルドサムスノランド[®]、サイネリア：プラネット混合ストック：マムバブル
ナデシコ：テラスカーレット、ハボタン：白はとピオラ：ピビエロイン[®]
ポリアンサ：プリムレットピクシェード[®]

(※2)普通土と荒い土

普通土は花苗ポット栽培用に調製した用土で、赤玉土：鹿沼土：バーミキュライト：パーライト：ピートモス：真砂土を1：1：1：1：1で混ぜ、マグアンプと有機石灰をそれぞれ、0.5%加えたもので5号ポットでの保水量は230g。荒い土は、保水量を少なくするために普通土の混合割合を4：4：2：2：1：1に変えた土で5号ポットでの保水量は160g。

事業名

本調査・研究は、令和2年度 農業振興センター 農業振興事業 (温室花苗鉢花試験栽培)により実施しました。

問合せ先

☆詳しい情報を知りたい、という方は下記までお気軽にご連絡ください。
姫路市役所 産業局 農林水産部 農業振興センター 〒679-2111 兵庫県姫路市山田町多田1174番地47
電話番号：079-263-2220 ファックス：079-263-2708 E-mail：engei@himeji.city.lg.jp